

足立区生活状況に関する調査
報 告 書
—概要版—

令和2年3月



福祉部くらしとしごとの相談センター

足立区生活状況に関する調査 報告書—概要版—

1 調査の概要

(1) 調査目的

足立区では、平成27年4月に施行された「生活困窮者自立支援法」に基づき、仕事・生活・家庭・こころの問題など、様々な課題を抱えた方の総合相談窓口を設置し、一人ひとりの状況に応じた自立に向けた支援を実施している。今後、より効果的な施策や事業を推進していくにあたっては、若年から中高年まで幅広い年代の方の生活状況や、困難を抱える方のニーズや課題の把握が不可欠である。

本調査では、区内在住の満15歳から64歳までの方を対象に、暮らしぶり、居住地域の人間関係、就労状況、ふだんの活動、外出の頻度等について調査し、生活状況やひきこもりの状況について把握することで、生きづらさを抱える様々な方に対する適切な支援のあり方を検討するための基礎データを得ることを目的とする。

(2) 調査対象

母集団：足立区内在住の平成31年4月2日において満15歳から64歳の男女

※中学生を除く

標本数：3,500人

(3) 調査時期

令和元年11月7日～11月25日

(4) 標本抽出方法

無作為抽出法

(5) 調査方法

郵送配付・郵送回収法

(6) 回収結果

有効回収数(率)：1,671人(47.7%)

2 用語の定義

(1) 広義のひきこもり群

「ふだんどのくらい外出しますか」の間に、下記5～8のいずれかと回答し、かつ、その状態となって6か月以上経つと回答した者

- 5. 趣味の用事の時だけ外出する
- 6. 近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない
- 8. 自室からほとんど出ない

ただし、次の者を除く。

- ア) 自営業・自由業を含め、現在、何らかの仕事をしていると回答した者
- イ) 身体的な病気がきっかけで現在の状態になったと回答した者
- ウ) 現在の状況を専業主婦・主夫、家事手伝いと回答したか、現在の状態になったきっかけを妊娠、介護・看護、出産・育児と回答した者のうち、最近6か月間に家族以外の人とよく会話した・ときどき会話したと回答した者

(2) 過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群

「あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか」の間に、下記の1～4のいずれかと回答した者。

- 1. 趣味の用事の時だけ外出する
- 2. 近所のコンビニなどには出かける
- 3. 自室からは出るが、家からは出ない
- 4. 自室からほとんど出ない

ただし、次の者を除く。

- ア) 身体的な病気又は自宅での就業・就労がきっかけで現在の状態になったと回答した者

3 調査の主な結果

(1) 広義のひきこもり群の出現率及び推計数

今回の調査結果における広義のひきこもり群の出現率は約1.56%であり、推計数は約6,430人である。

	〔該当人数 (人)〕	〔有効回収数に占める割合 (%)〕	〔推計数 (人)〕	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	12	0.72	2,968	準ひきこもり 2,968人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	13	0.78	3,215	
自室からは出るが、家からは出ない	0	0.00	0	狭義のひきこもり 3,462人
自室からほとんど出ない	1	0.06	247	
計	26	1.56	6,430	広義のひきこもり 6,430人

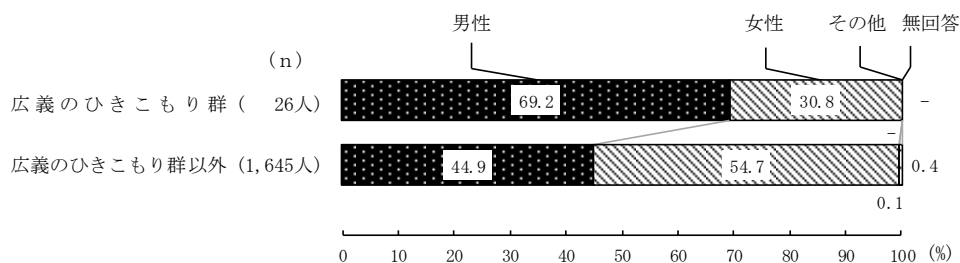
(注) 足立区住民基本台帳人口 (令和元年10月1日現在) によると、15～64歳の足立区の人口は413,266人であることから、上記の表における推計数は以下の式で算出される。

有効回収数に占める割合 (該当人数 / 有効回収数 1,671人) × 413,266人 = 推計数 (人)

なお該当人数以外の表の数値については四捨五入している。

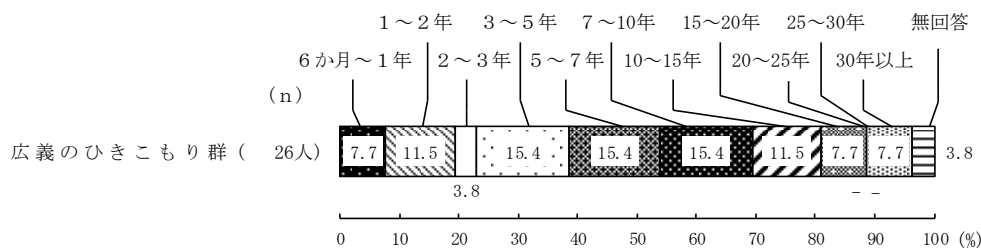
(2) 性別 (Q1)

広義のひきこもり群では、男性が約7割を占める。



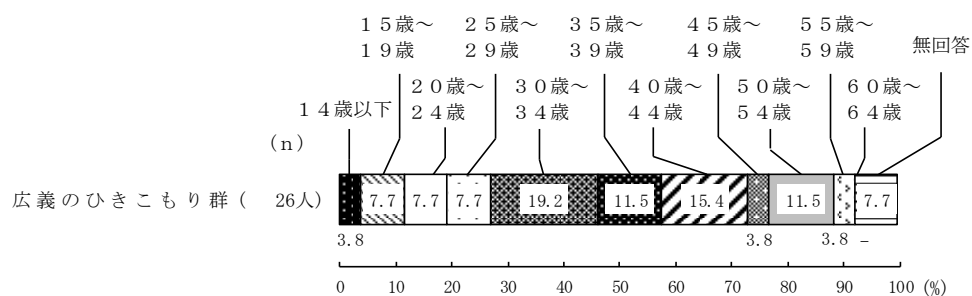
(3) ひきこもりの状態になってからの期間 (Q21)

ひきこもりの状態になってからの期間は、5年以上の者が約6割となっている。



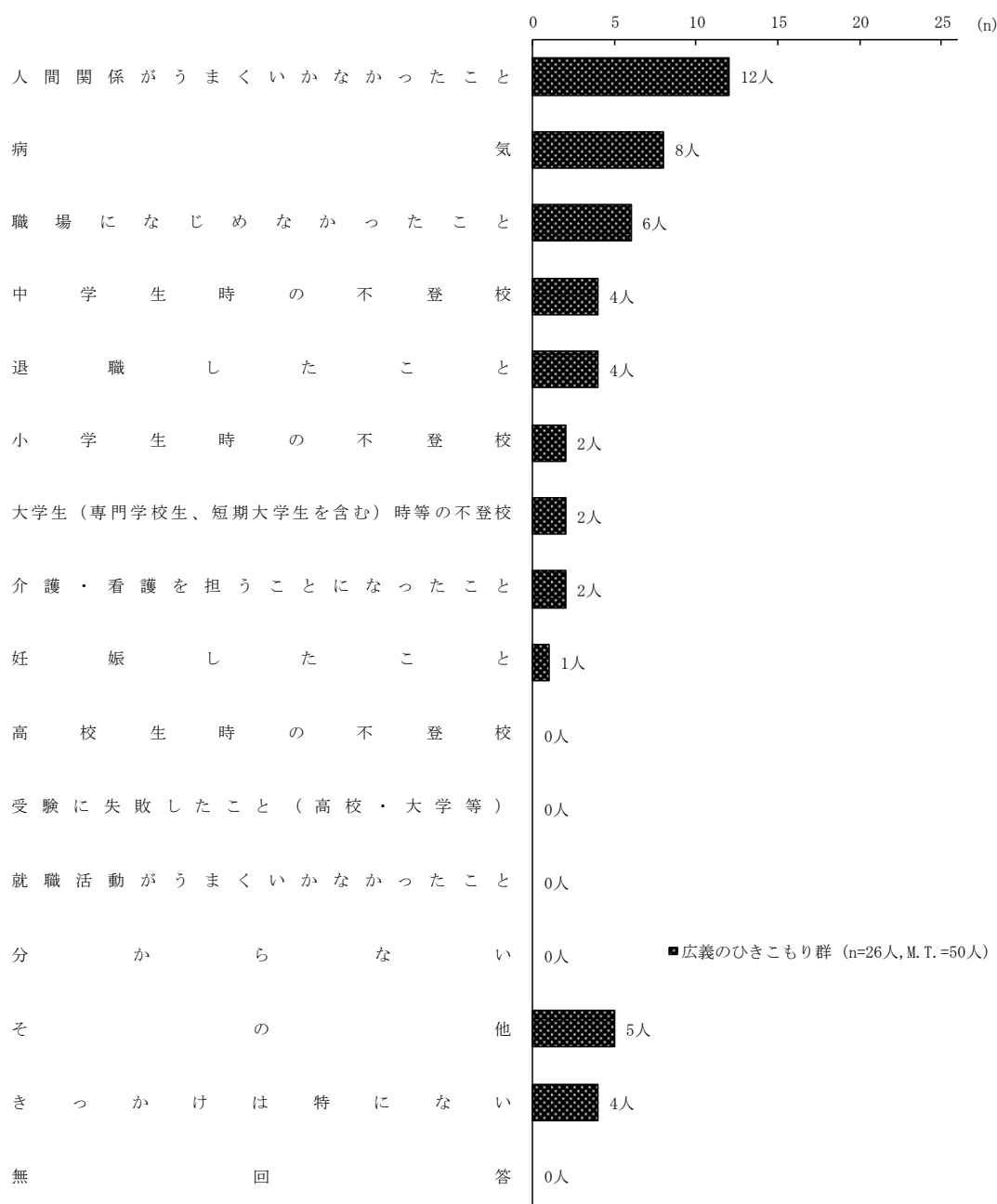
(4) 初めてひきこもりの状態になった年齢 (Q 2 2)

初めてひきこもりの状態になった年齢は、大きな偏りなく全年齢層に広く分布している。



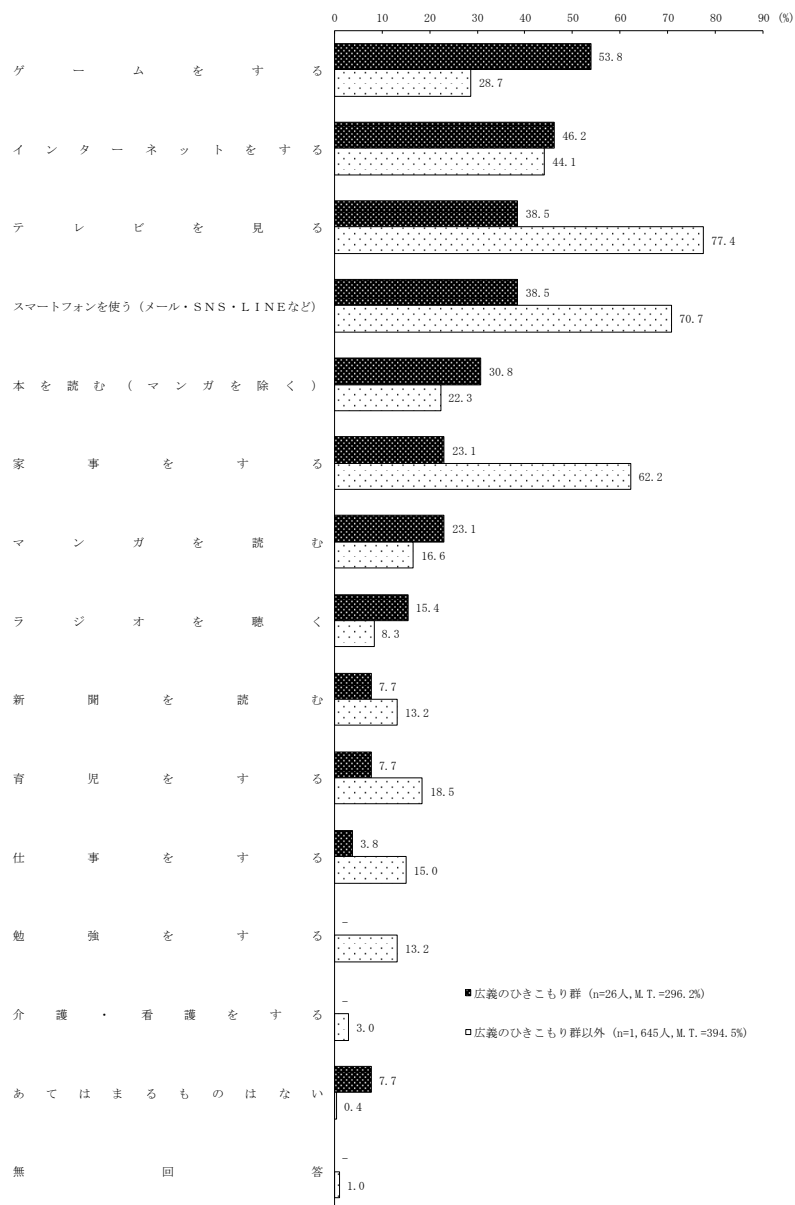
(5) ひきこもりの状態になったきっかけ (Q 2 4)

ひきこもりの状態になったきっかけは、「人間関係がうまくいかなかったこと」「病気」「職場になじめなかったこと」をあげた者が多い。



(6) ふだん自宅でよくしていること (Q18)

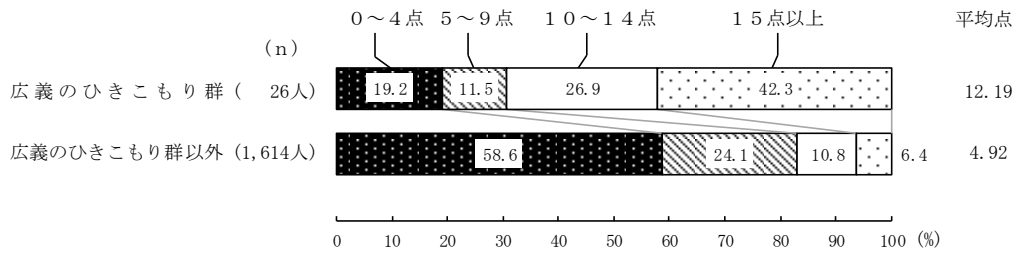
ふだん自宅でよくしていることとして、広義のひきこもり群以外と比較して、広義のひきこり群の割合が高かったのが「ゲームをする」であった。反対に広義のひきこり群以外の割合が高かったのが「テレビを見る」「スマートフォンを使う(メール・SNS・LINEなど)」であった。



(7) こころの状態（点数階級）別構成割合（Q37）

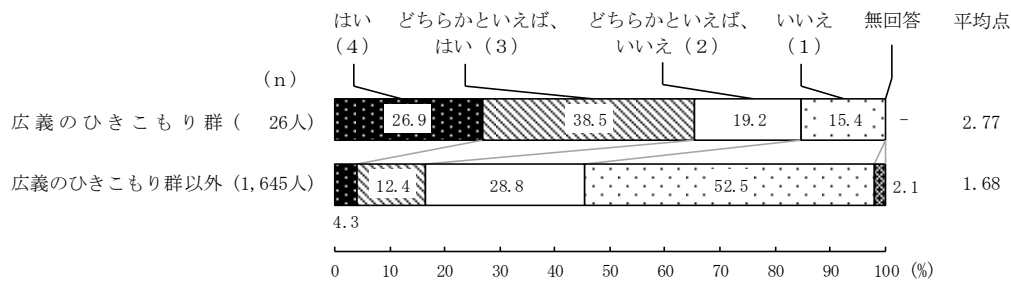
過去30日間のこころの状態を尋ねた6つの質問について、5段階（0～4点）に点数化して合計（※）し、点数階級別に分類した結果、広義のひきこもり群では「15点以上」42.3%、広義のひきこもり群以外では「15点以上」6.4%となっている。

※合計点数が高いほど精神的健康度が低いことを示している。



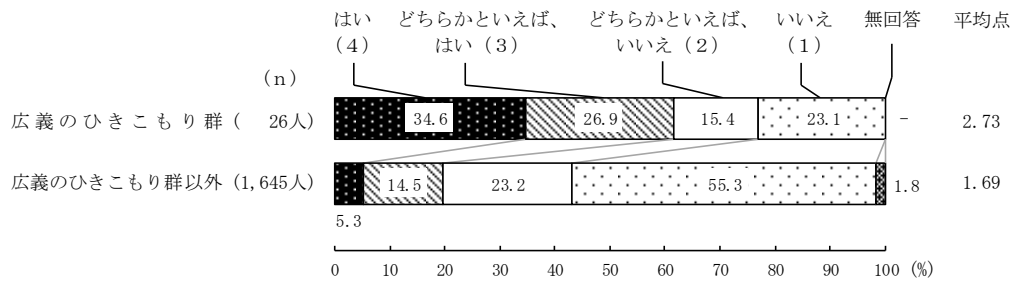
(8) 安心・安全だと感じられる人間関係がないと思う（Q38）

広義のひきこもり群以外と比較して、広義のひきこもり群では、安心・安全だと感じられる人間関係がないと思う者の割合が高い傾向がある。



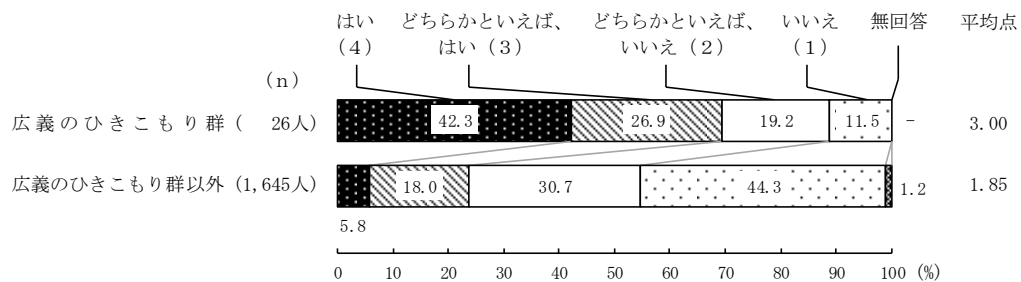
(9) 家族との関係に悩みを抱えている（Q38）

広義のひきこもり群以外と比較して、広義のひきこもり群では、家族との関係に悩みを抱えている者の割合が高い傾向がある。



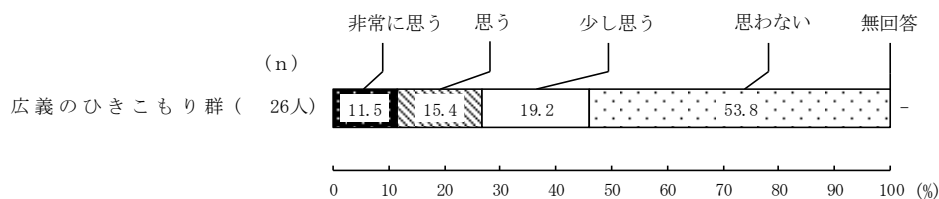
(10) 現在、生活が経済的に困窮している（Q38）

広義のひきこもり群以外と比較して、広義のひきこもり群では、現在、生活が経済的に困窮している者の割合が高い傾向がある。



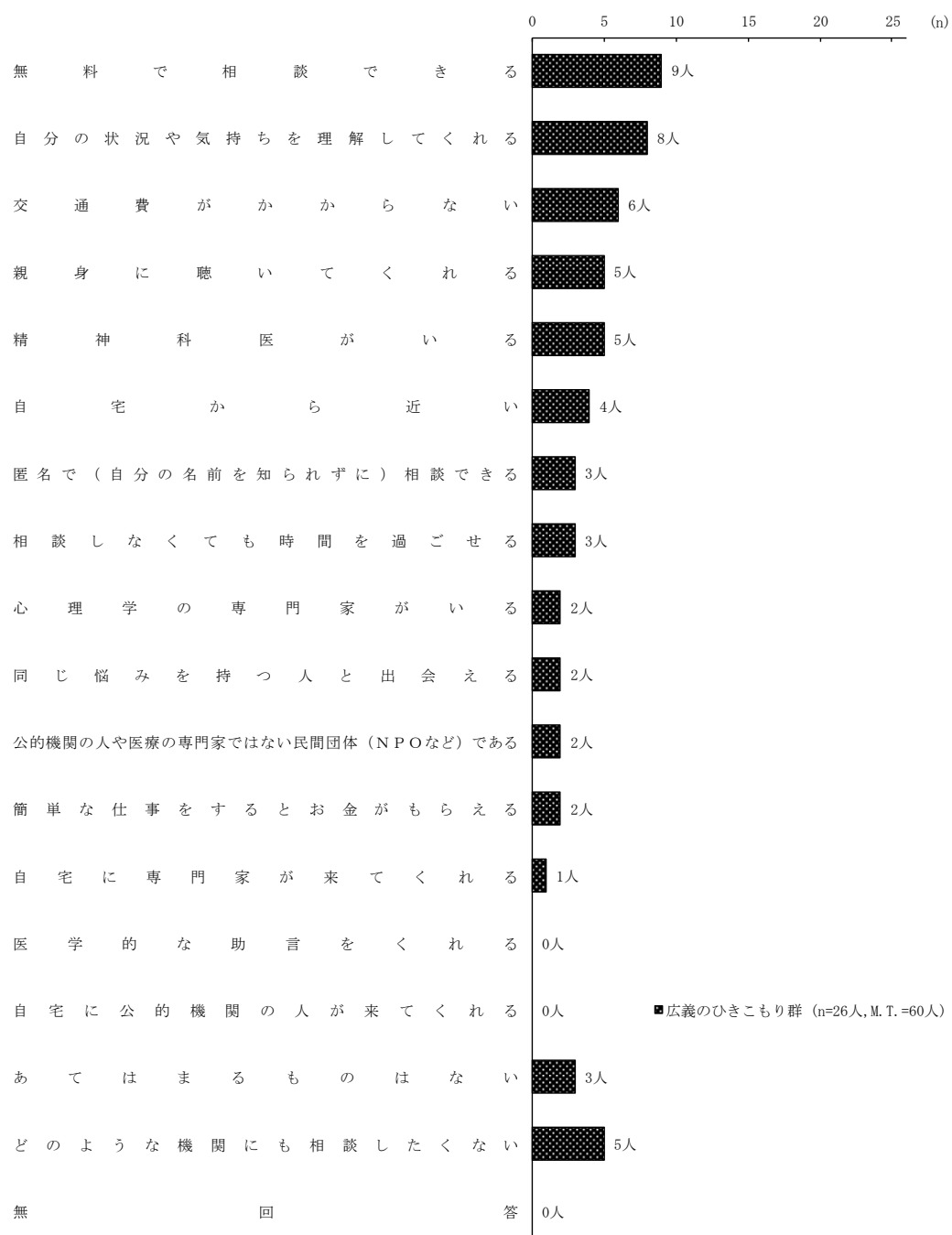
(11) ひきこもりの状態について、関係機関に相談したいか (Q25)

広義のひきこもり群において、関係機関に相談したいと「思う」と回答した者と「思わない」と回答した者の割合はほぼ半々となった。



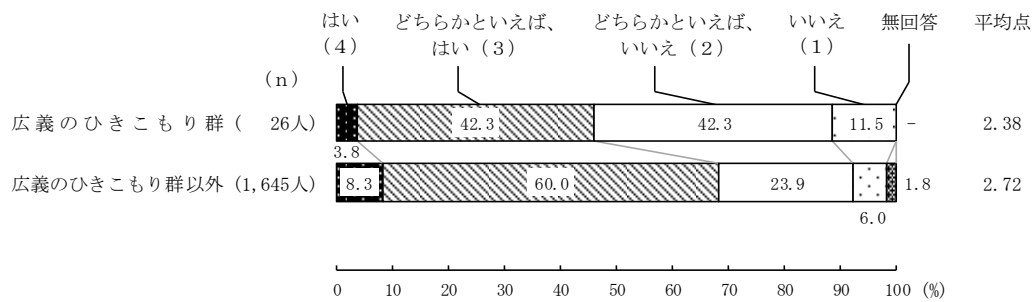
(12) ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか (Q26)

広義のひきこもり群において、「無料で相談できる」をあげた者が最も多く、「あてはまるものはない」「どのような機関にも相談したくない」との回答もあった。



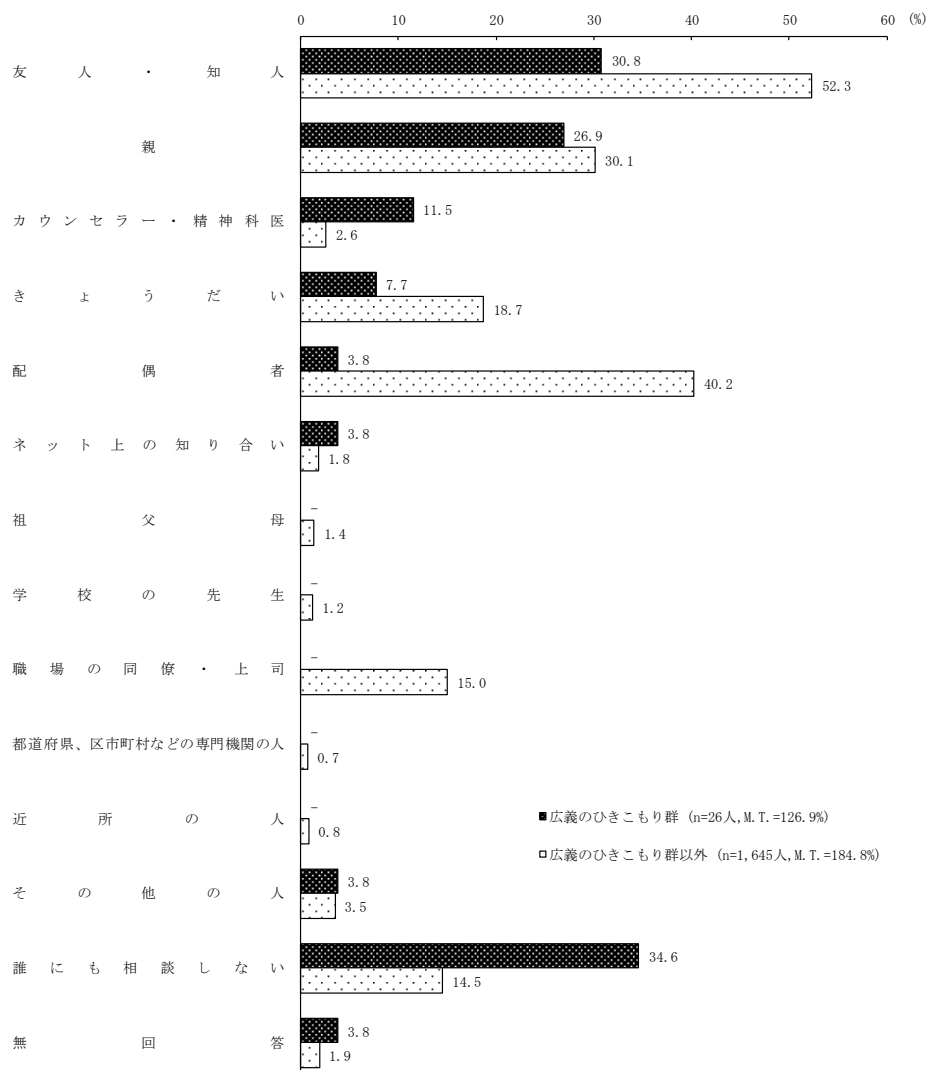
(13) この地域の人々は信頼できる (Q 8)

広義のひきこもり群以外では約7割、広義のひきこもり群では約5割がこの地域の人々は「信頼できる」と回答している。



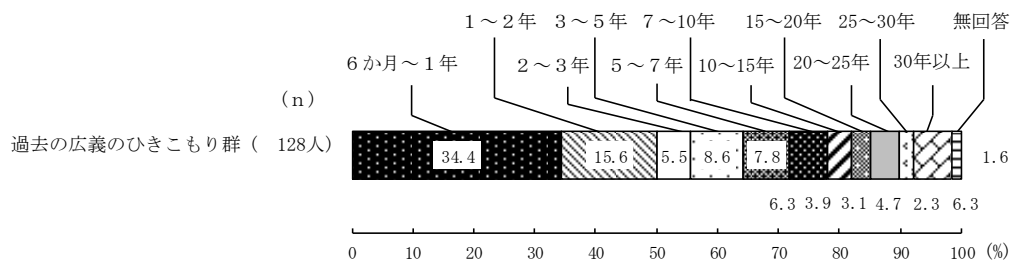
(14) ふだん悩みを相談する相手 (Q 4 2)

広義のひきこもり群以外と比較して、広義のひきこもり群では、ふだん悩みを相談する相手として「友人・知人」「配偶者」と回答したものの割合が低い。また、広義のひきこもり群では、3割以上の者が「誰にも相談しない」と回答している。



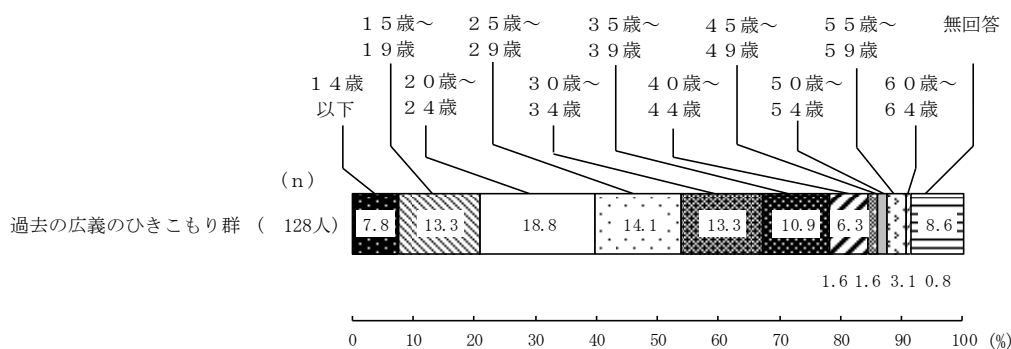
(15-1) 過去にひきこもりの状態だった期間 (Q32)

過去にひきこもりの状態だった期間は、6か月以上1年未満の者の割合が3割以上と最も高く、2年未満の者の割合が半数を占めている。



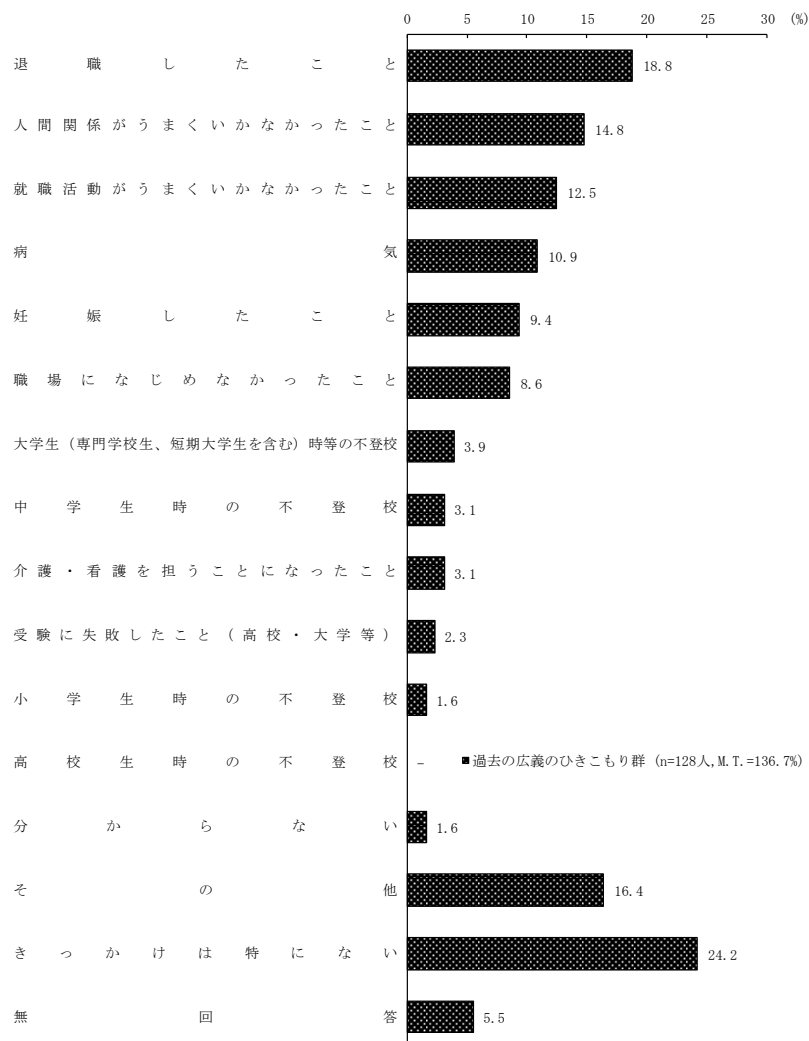
(15-2) 過去に初めてひきこもりの状態になった年齢 (Q33)

過去に初めてひきこもりの状態になった年齢は、大きな偏りなく全年齢層に広く分布している。



(15-3) 過去にひきこもりの状態になったきっかけ (Q34)

過去にひきこもりの状態になったきっかけとして割合が高かったのは、「退職したこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」「就職活動がうまくいかなかったこと」「病気」の順となっている。



(15-4) ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと (Q35)

<回答抜粋>

- ・子どもを通じた知り合い、お友達との交流
- ・人との付き合い方を変えた。
- ・年上の知識のある人たちと仲良くなったこと。
- ・自分が変わりたいと思うようになった。
- ・ひきこもりサポートで面談をして、アルバイトから社会復帰をしていった。
- ・人の言葉だったり読んだ本等の内容に影響され、気持ちに変化が出てきた。
- ・あそびでもいいから楽しく目標になるものを見つけた。